

平成27年度 公立小中学校における長期欠席（不登校）の状況等（データ）

（表2）不登校児童生徒（30日以上欠席者）数の推移（公立小中学校）

区分	小学校				中学校				不登校児童生徒数の合計(人)
	(A)全児童数(人)	(B)不登校児童数(人)	不登校児童数の増▲減率(%)	B/A×100(%)	(A)全生徒数(人)	(B)不登校生徒数(人)	不登校生徒数の増▲減率(%)	B/A×100(%)	
23年度	103,158	353	0.9	0.34	51,282	1,453	▲ 1.9	2.83	1,806
24年度	101,211	391	10.8	0.39	50,949	1,356	▲ 6.7	2.66	1,747
25年度	99,580	489	25.1	0.49	50,852	1,336	▲ 1.5	2.63	1,825
26年度	98,056	456	▲ 6.7	0.47	50,022	1,447	8.3	2.89	1,903
27年度	96,501	443	▲ 2.9	0.46	49,716	1,478	2.1	2.97	1,921

（表3）不登校の要因（複数回答）

（単位：人数）

区分 分類	小学校										中学校											
	分類別児童数	学校に係る状況									I 家庭に係る状況	分類別生徒数	学校に係る状況									I 家庭に係る状況
		A いじめ	B いじめを除く友人関係をめぐめる問題	C 教職員との関係をめぐめる問題	D 学業の不振	E 進路に係る不安	F クラブ活動、部活動等への不適応	G 学校のきまり等をめぐめる問題	H 入学、転編入学、進級時の不適応	A いじめ			B いじめを除く友人関係をめぐめる問題	C 教職員との関係をめぐめる問題	D 学業の不振	E 進路に係る不安	F クラブ活動、部活動等への不適応	G 学校のきまり等をめぐめる問題	H 入学、転編入学、進級時の不適応			
ア「学校における人間関係」に課題を抱えている。	51	1	41	4	4	1	1	3	4	13	236	1	206	17	25	10	34	5	15	44		
イ「あそび・非行」の傾向がある。	6	0	0	0	1	0	0	0	0	6	158	0	31	10	50	12	4	67	1	101		
ウ「無気力」の傾向がある。	145	0	16	2	45	1	0	1	4	117	458	0	81	6	144	29	16	25	38	292		
エ「不安」の傾向がある。	129	0	37	3	26	1	0	3	11	96	424	1	172	12	103	56	25	7	45	209		
オ「その他」	112	0	3	3	6	0	0	2	2	103	202	0	34	1	29	5	5	4	16	148		
計	443	1	97	12	82	3	1	9	21	335	1478	2	524	46	351	112	84	108	115	794		

（表4）「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置（複数回答）

区 分	小学校		中学校	
	校数	構成比(%)	校数	構成比(%)
不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。	42	24.3	50	36.5
全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。	28	16.2	43	31.4
教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。	11	6.4	17	12.4
養護教諭が専門的に指導にあたった。	20	11.6	37	27.0
スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。	36	20.8	45	32.8
友人関係を改善するための指導を行った。	29	16.8	48	35.0
教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。	37	21.4	48	35.0
授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。	23	13.3	19	13.9
様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。	34	19.7	41	29.9
保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。	19	11.0	42	30.7
登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。	41	23.7	61	44.5
家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。	44	25.4	73	53.3
保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。	39	22.5	56	40.9
教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。	15	8.7	22	16.1
病院等の医療機関と連携して指導にあたった。	4	2.3	11	8.0
その他	4	2.3	5	3.6

※（構成比は不登校児童生徒在籍学校数に対する割合）

(表5-1) 専門的な相談・指導等を受けた学校内の機関等 (複数回答)

区 分		小 学 校		中 学 校		合 計	
		人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
学 校 内	養護教諭による専門的な指導を受けた人数	103	52.3	344	61.8	447	59.3
	スクールカウンセラー, 相談員等による専門的な相談を受けた人数	177	89.8	448	80.4	625	82.9
	上記による相談・指導等を受けた実人数	197		557		754	

※ (構成比は上記の機関等での相談・指導を受けた実人数に対する割合)

(表5-2) 専門的な相談・指導等を受けた学校外の機関等 (複数回答)

区 分		小 学 校		中 学 校		合 計	
		人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
学 校 外	教育支援センター (適応指導教室)	92	41.3	271	43.9	363	43.2
	教育委員会及び教育センター等教育委員会所管の機関	84	37.7	155	25.1	239	28.5
	児童相談所, 福祉事務所	51	22.9	123	19.9	174	20.7
	保健所, 精神保健福祉センター	2	0.9	7	1.1	9	1.1
	病院, 診療所	55	24.7	161	26.1	216	25.7
	民間団体, 民間施設	11	4.9	7	1.1	18	2.1
	上記以外の機関等	6	2.7	32	5.2	38	4.5
	上記の機関等での相談・指導等を受けた実人数	223		617		840	

※ (構成比は上記の機関等での相談・指導を受けた実人数に対する割合)